



～おしるこ おいしいな～♪～

(東児童館おしるこ会)

かみふらの 議会だより

第 85 号

2015年2月10日発行
発行 上富良野町議会

- 第4回定例会 スクールバスの混乗方式を廃止…………… 2
- ズバリ ここが聞きたい!! 一般質問3名の議員が質問…………… 6
- 委員会のうごき 議会運営委員会報告ほか …………… 10
- 「町のひと」にインタビュー! …………… 18

混乗方式を廃止

路線バスは十勝岳線のみ

12月定例会は12月11日から12日の2日間開催しました。スクールバスの混乗方式を廃止する条例のほか、19議案を審議し、原案可決しました。
また、3名の議員が町長と教育長へ一般質問をしました。

町営バスの清富、里仁・江幌・静修、江花、東中線はスクールバスと一般の方も利用することができる混乗方式で運行してまいりました。しかし、一般の利用者のほとんどが65歳以上の高齢者で、平成25年度から本格運行している予約型乗合タクシーの利用が定着し、一般の利用者が減少したため、一般の利用者との混乗方式を廃止する条例を全員賛成で可決しました。

今後は児童生徒のスクールバスとしての運行となり、65歳以下で運転免許なども持っていない方は、運行を継続している十勝岳線の利用のみとなります。



■ 12月補正予算の状況 ■

会計名	補正額	総予算額
一般会計	1742万6千円	74億8475万6千円
国民健康保険特別会計	▲231万2千円	13億6130万7千円
後期高齢者医療特別会計	▲350万5千円	1億3288万6千円
介護保険特別会計	▲47万3千円	8億5504万7千円
簡易水道事業特別会計	▲1098万9千円	5919万5千円
公共下水道事業特別会計	▲1143万6千円	4億8584万8千円
ラベンダーハイツ事業特別会計	▲80万円	3億82万8千円
水道事業特別会計	(収益的支出) 0円	1億7182万2千円
病院事業特別会計	(収益的支出) 0円 (資本的支出) 13万円	9億5552万9千円 3563万4千円

意見書を国などに 提出しました

電気料金再値上げに反対する意見書

北海道電力が国に対して再値上げを申請し、これ以上の町民の負担や産業などへの悪影響を最小限にとどめる必要があることから、値上げ申請の回避や電気の安定的な供給のための助成制度の創設などを求める意見書です。

国民健康保険に対する 国庫負担の増額を求める意見書

国民健康保険は保険料が高く、加入者の生活を圧迫し、困難を極めていきます。

平成22年の通常国会予算委員会での鳩山首相は国庫負担の削減が保険料の高額化につながっていることを認め、「財源の確保に努力したい」と述べました。

また、「国民健康保険法」では国の責務に「国は国民健康保険事業の運営が健全に行われるよう努めなければならない」と規定されています。

このため、全国的に苦しい財政運営を余儀なくされている国民健康保険に対して国庫負担を増額するよう強く要望する意見書です。

スクールのバスの



質 疑

利便性はどうか?

問 スクールバスのみ
にした場合、一般
利用者の利便性はど
うなりますか。

答 現在、一般の利用
者は減少してきて
います。

また、高齢者や障
がい者の交通手段を確保
し、生活支援や閉じこ
もりを予防するため、
昨年度から本格的に予
約型乗合タクシーの運
行を始めました。今年
度からは土曜日も運行
しているため、これら
の利用で利便性は確保
されると思います。

予約型乗合タクシー?

問 予約型乗合タクシー
はバスに比べ料金が
高いので、日曜日と祝祭
日も運行するなど、利用
環境を改善しては。

答 アンケート調査をし
たところ、ほとんどの
利用目的は通院でした。
今年度から土曜日も運行
を始めましたので、当面は今
までどおり運行します。

問 予約型乗合タクシー
の区域内と区域外の
料金に差があるので、負
担を均一化できないで
しょうか。

おしえて!!

『予約型乗合タクシー』ってな〜に?

65歳以上の高齢者や障がい者の方々の移動手段を確保し、生活支援や閉じこもりを予防するため平成25年度から本格的に運行している事業です。区域内での移動は200円、区域外への移動は400円で運行しています。

答 昨年のアンケートで
多くの方から現行料
金を理解をいただいでい
ます。当分の間は現行の
料金を継続します。

子ども達に影響は?

問 通学する児童・生徒
に合わせて、きめ細
やかに路線を決めること
はできるのですか。

答 通学時間が30〜40分
以内になるよう、で
きるだけ児童・生徒の家
を考慮して路線を決め、
特に路線から家が遠くな
る場合などはタクシーの
活用も考えていきます。

第4回臨時会（10月9日開催）

全国・全道大会へ出場するための
経費を助成

ジュニアオリンピック陸上大会の砲丸投げに西塚大悟さん（中2）、山内沙耶佳さん（中2）の2名と全道中学校英語暗唱大会に1名が参加するため、その派遣費用として総額21万2千円を助成しました。

寄付金で介護用ベッドなどを購入

ラベンダーハイツ、町立病院、教育委員会にそれぞれ寄付を頂いたため、それぞれの寄付者の意向に沿って総額233万円の介護用ベッドやテーブルなどの備品を購入しました。

橋梁架替工事の請負契約を締結

第20号橋、第21号橋の架替工事入札が行われ、第20号橋が1億5千87万6千円、第21号橋が1億33万2千円でそれぞれの工事請負契約を締結しました。

第5回臨時会（10月27日開催）

高齢者や障がい者世帯へ生活支援

消費税増税や灯油、電気料の値上げ、物価上昇などの状況から、住民税非課税の高齢者や障がい者世帯などへの支援策として今年度に限り1世帯1万2千円相当のプレミアム付き商品券を588世帯へ給付するため、道の補助金と地域福祉基金から総額713万3千円で実施します。

プレミアム付き商品券を発行

町の商工振興に資するため、商品券の発行にかかる経費のうち20%の上乗せ分の1千200万円を商工会へ助成しました。

補正予算

農地台帳システムを改修

一般会計の補正予算は、保育所入所者の移動によるものや知事・道議会議員選挙を執行するための費用、農地台帳管理の法制化によるシステムの改修費用、教科書の改訂による指導用図書の購入費用などの増額が提案され、全員賛成で可決しました。

おしえて!!
『農地台帳システム』
ってな～に？

市町村の農業委員会
が記録する「農地」な
どの台帳のこと。選挙名
農業委員会の確認、農地
簿や転作の際に資料と
して利用されます。

各特別会計と企業会計の
補正予算を可決

各特別会計の平成26年度事業に対する国などからの負担金などの額が確定したことや、人事院勧告による給与費の改定、寄付金による備品購入費の増額、工事費の確定などにより、国民健康保険特別会計や簡易水道事業特別会計などの6特別会計を減額し、寄付を頂いた町立病院会計は増額しました。

条例
例

災害時の要支援者名簿が
関係機関へ提供可能に

平成25年度に改正された災害対策基本法により、要支援者名簿が作成されることになり、町でも地域防災計画によって名簿の作成が位置付けられました。しかし、この名簿を関係機関などへ提供するためには要支援者本人の同意が必要となります。

この避難行動要支援者名簿に関する条例を制定し、必要な事項を定めることで本人から「拒否」の意思表示がない限り、平常時から関係機関へ名簿を提供できるようにいたします。これにより、災害時に円滑かつ迅速な避難支援ができ、要支援者を災害から守ることができ



避難訓練のようす

第6回臨時会（11月7日開催）

建設中の泉町南団地給湯設備の変更を否決
電気料の値上げにより、入居者の負担を軽減するため、給湯設備を電気温水器から灯油給湯器に変更するための工事費816万5千円を増額する補正予算を提案しました。しかし、賛成4人、反対7人で否決しました。

質
疑

問 2号棟以降の建設時に灯油が大きく値上がりした場合、灯油給湯器をやめて電気温水器を設置することになるのですか。

答 その時の情勢で判断します。平成27年度以降は電気温水器が国の補助対象から外れるので、当面は灯油給湯器を設置します。

問 当初予算の時から電気料の値上げは決まっていたのに、なぜ完成間近になってから灯油給湯器への変更を提案するのですか。

答 当初予算の時に電気温水器のコストの方が灯油給湯器より高かったものの、その差は小さかったため、設計通り進めました。10月16日の値上げ幅の発表により、電気料と灯油代の差が大きくなったため、この時期に変更を判断しました。

問 ランニングコストの積算はどのようにしたので

答 3LDKに入居した場合の平均を積算してコストを計算しました。

第7回臨時会（11月25日開催）

衆議院議員総選挙の費用を追加

衆議院議員選挙が12月14日に執行されることが決定し、国から割り当てられた選挙費用697万円を町で計上している予算に上乘せしました。

平成25年度決算を 徹底審査!



平成26年10月7日から9日の3日間、議長と議会選出の監査委員を除く12名で決算特別委員会(長谷川 徳行委員長)を開会し、平成25年度の一般会計、各特別会計、企業会計の決算を審議しました。

2つの分科会に分かれての書類審査や、予算の執行に対して61項目の質疑が交わされ、適切に執行されたのか熱心な審議が行われました。

また、町長に対して9つの意見を付し、第4回定例会で認定しました。

9つの審査意見を付しました

一般会計

町税などの収納

収納率の向上が見られるものの、不納欠損にならないよう努力を。

演習場周辺地区整備補助事業

できるだけ早期に事業を行い、効果的な執行を。

インフラの整備

老朽化している道路や河川、橋梁、上下水道などの計画的で効果的な更新を。

公共施設の需用費

電気料・燃料費などが高騰しているため、積極的に新エネルギーの導入を。

在宅福祉

多様なニーズに対し、きめ細やかに対応を。

25年度の新たな取り組み

新規開業などへ補助

新規開業や事業展開などの業務拡大に対して改装費や空き店舗を活用するための家賃、人件費などの補助を実施しました。設備投資と空き店舗を活用して開店した2件に総額で207万9千円を補助しました。

かみふっ子健診

子どもの頃から食生活や運動などを意識し生活習慣病を予防するため、小学5年生と中学2年生の希望者に健診を行いました。

上高生へ通学費などを補助

上富良野高校に通う生徒へ入学準備金や通学費、下宿代を補助し、就学支援金を給付しました。入学準備金25人、通学費補助28人、就学支援金54人へ総額579万8千円を補助しました。

防災

現実に即した防災訓練となるよう常に見直しを。また、防災士に専門的知識を有した人材の登用を。

定住・移住促進と企業誘致

実効性のある目標を定め、具体的な取り組みを。また、企業誘致など働く場の確保を。

国保会計

病気の予防を促進して重度化を防ぎ、保険給付費の抑制を。

公共下水道事業会計・水道事業会計

滞納や収入未済に適切な対応を行い、チェック体制を確立して不納欠損の縮減を。

ズバリ ここが聞きたい！

一般質問



一般質問とは、定例会において議員が住民の声や自身の考えなどをもとに町部局に対して行財政全般の考え方や疑問を問うことです。執行機関に所信を問い、事実を質すことにより、公正な行政を確保しようとするものです。

議会だよりではスペースの都合上、質問と答弁を要約して掲載しています。詳細は、後日、行政ホームページに掲載します。

議場では臨場感のあるやり取りを傍聴することができますので、ぜひ、議場へお越してください。

ページ	質問議員	質問事項
7	村上 和子 議員	① 人口減少時代に対応した町独自の支援事業の展開を ② 江幌小学校閉校後の利活用について
8	米沢 義英 議員	① 福祉避難施設の指定について ② ファミリーサポーターについて ③ 中学生までの医療費無料化と小児科の設置について ④ 介護保険計画について ⑤ 農業政策について ⑥ 6次産業化について
9	佐川 典子 議員	① 胃がん予防（ピロリ菌除菌）について ② 高齢者や障がい者に優しい環境整備について



政策

—村上 和子 議員—

人口確保のために街コンと出生祝い金の実施を 引き続き婚活事業へ協力していく

出生祝い金の考えはない（町長）



婚活イベントのようす

村上議員 ライフスタイルの多様化で結婚をしない選択をする男女が増えている。出会いの場を創出し、婚活を促すためにも街コンを実施しては。

向山町長 現在行っている事業に対して支援や協力しており、引き続き支援する。若者がイベントなどに参加しやすいように工夫し、出会いの機会が増えることを期待する。

村上議員 町のホームページで参加者を募れば地元だけでなく町外からも女性が集まり、人口増

にもつながるのでは。

向山町長 人口確保に結びつき、町として取り組めるものがあれば検討したい。

村上議員 町の合計特殊出生率は道内では高い数値となっているものの、年々落ちてきている。出産などには経済的な負担が大きいため、第1子、2子、3子に対して祝い金を支給してはどうか。

向山町長 子育て環境の整備は大切だと受け止めている。しかし、給付制度を創設する考えはない。

施設

江幌小の利活用に周辺住民の声の反映を 民間活力を含めた 幅広い利活用を検討する（教育長）

村上議員 閉校する江幌小学校の利活用について、江幌・静修住民会では利活用したいものの、住民会で維持管理を行っていくには荷が重いという結論になったと聞いている。これらを行政としてどのように受け止め、考えていくのか。周辺住民の思いをいかすためにも、町側から維持管理を行う人材を派遣して利活用できないか。

服部教育長 江幌と静修の両住民会からは「ミニバレーや高齢者のフロアカーリングに閉校後も利用したい。」「住民会館として利用したい。」「災害時の避難所機能として残してほしい。」と3点の要望があった。その中で、2つ目の会館としての利活用については、現在、公

民館江幌分館を地域の集会所として利用しているため、その考えはない。

村上議員 民間活力となれば住民の要望や避難場所はどうなるのか。

服部教育長 住民会の意向などは相手方が許せば極力対応したい。避難所は江幌小に改正したばかりであるものの、分館に直すという方法もある。



閉校になる江幌小学校



— 米沢 義英 議員 —

**医療費の無料化と小児科設置の考えは
非常にハードルの高い課題である（町長）**

子育て



乳幼児の予防接種のようす

米沢議員 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査でも、中学生までの医療費の無料化と小児科設置を求める声が多数あるが。

向山町長 昨年実施したアンケート調査では、小児医療に対する不安や医療費の負担感に多くの意見が寄せられた。

町内に小児科を設置することは課題も多く、今後も、病児保育など子育て支援事業の充実や、任意の予防接種費用の助成

各種検診事業など予防や母子保健面からの支援充実に取り組んで行くことが必要と考えている。

中学生までの医療費の無料化は、多額の費用が伴う事業のため、年代による医療費の負担額、入院・通院別など、様々な角度から検証を行い、子育て支援全体の中で、現行の乳幼児医療費助成制度の見直しも含め、検討を進めたい。しかし、いづれも非常にハードルが高い課題である。

農業

**地域農業を支える担い手育成の考えは
第7次農業振興計画をもとに
進めたい（町長）**

米沢議員

高齢化が進む

農業の中で、担い手となる女性農業者の集いの開催や後継者の育成及び新規就農者の支援体制が必要では。

向山町長

女性の農業者

の育成は、女性農業者で構成される直売所活動への支援をはじめ、学習・研修機会への情報提供などを行っており、年々活発化してきていると認識している。

今後も、町の研修制度などの活用拡大を図りながら引き続き支援をしたい。

また、労働力確保のための体制づくり、後継者の育成や新規就農者への受け入れは、大変重要なことと認識しており、新規就農者受け入れのための諸対策も含め、農作業

全般を支援するコントラクターの導入や法人化の推進など、総合的な見地から労働力の確保や担い手対策を講じる必要がある。

農業が魅力的な産業になっていくことが重要であり、第7次農業振興計画では、そのような方向へ向かっていけるよう計画している。



第7次上富良野町農業振興計画書



環境

—佐川 典子 議員—

ベンチを設置し高齢者などの移動環境の整備を町民の意向を把握し検討する（町長）



店先に設置されているベンチ

佐川議員 平成25年、高齢者・障がい者等の移動など円滑化促進に関わる条例が国から権限移譲された。道路利用者の安全安心が盛り込まれ、ベンチや上屋の設置など、ソフト面において配慮が求められている。高齢化の影響とスーパ一の撤退により、買い物弱者が増加し、買い物先や病院付近で路肩に腰を下ろしたり、手押し車で腰をかがめ、休みながら歩く姿が何度も見られる。この方々が

休むためのベンチを増やし、高齢者などが自分のペースで歩くための手助けとなるような環境の整備を考えては。

向山町長 歩行や移動のための環境整備の必要性は十分理解している。町でも7か所、その他店頭にもベンチを置いている所も数か所みられ、町民の意見や実態を伺い、多くの皆さんが望まれる場所や不足している部分があれば改善したい。

健康

ピロリ菌検査などで胃がん予防の施策をがん検診の受診率向上を目ざす（町長）

佐川議員 国は胃がんで

の死亡率を減らすため、ピロリ菌の除去などに保険の適用拡大を承認した。町民の胃がん検診率は13・8%と一番低い。また、町の国保医療費総額の32%をがんが占めており、国と比べても財政的な負担が大きくなっている。早期の胃がんが発覚した場合の医療費は約32万円なのに対し、進行がんの発覚後は約175万円かかる。がん予防は医療費の削減につながるのでは。

向山町長 治療費は国保

の基盤安定化を大きく左右するため、「健康づくり推進のまち」として意を尽くしたい。

佐川議員 予防できる情報がある以上、町民周知の講演会などを予定して

は。由仁町や稚内市、美幌町などでは講演会や助成の予算化をしている。「健康づくり推進のまち」として取り組んでは。向山町長 現時点ではこたえられる状況ではない。

佐川議員 ピロリ菌に感染しているかを中高生のうちに検査し、除菌すれば100%に近い確率で



ピロリ菌のパンフレット

議会運営委員会

11月19日に開催した第5回議会報告会と11月21日に開催した住民会長との懇談会の内容、町民の皆さまにご協力を頂いたアンケートの結果を掲載します。

また、議会運営委員会では2回にわたり定数と報酬の方向性を決定するために協議の経過などを掲載してきました。

しかし、議会運営委員会としては方向性を決めず、議員個々の判断で発議することにしました。今回はこの決断までに再度考え方などの協議を行いましたので、その内容を12ページに掲載します。

議会報告会を実施

議員定数と報酬について懇談しました

議会では町民の皆さまと直接お話しする機会を設けるため、11月19日に第5回議会報告会を開催しました。

14名の議員を2班に分け、3月定例会から9月定例会までに議決した内容や各委員会の活動内容などを報告しました。

また、町民の皆さまに自由に発言して頂き、議員との間で意見交換などが行われました。

この報告会で寄せられた



住民会長との懇談会を実施

議員13名がお話を聞きました

議員定数と報酬についての意見を頂くため、11月21日に開催された、住民会長懇談会に、議員13名が伺い、たくさんの意見を頂きました。

定数は削減をすべきと

たくさんの意見ありがとうございました

議会報告会と住民会長との懇談会で「議員定数」と「報酬」について町民の皆さまから頂いた意見を要約して掲載します。

また、町内に設置してある町民ポストにおいて、8月1日から12月26日までアンケートを募集し、12通のご意見を頂きました。

また、町内にご設置してある町民ポストにおいて、たくさんのご協力ありがとうございました。

町民ポスト	住民会長との懇談会	議会報告会	議員定数	報酬
<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少している中で増やすことはありえない。 ・過去の懇談会では減らさない理屈などを示しただけで結果的に削減しなかった。まずは2名削減しては。また、大半の議員は住民の意見を聞いていない。 ・議員自身が定数を削減することに期待して静観してきたものの、その流れが中々見えず、残念でならない。 ・少ない議員でも切磋琢磨して活動をすれば町民の負担に十分こたえられると思う。議会の良識ある英断を切に望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少しており、現在の14名を維持できるのか。選挙がない中で議会運営されると町民の関心が薄まるのではないかと。 ・選挙がないと町民の意思を反映したことはない。何名かは減らした方がいいのでは。議員がまちづくりに対してどのように考えているのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定数を減らし、選挙で競争するようにして議員のレベルアップを。 ・各常任委員会や議会運営にマイナスなことがあるのであれば現状が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定数を減らし、選挙で競争するようにして議員のレベルアップを。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの議員が第2の人生に議員活動を充てているので、17万円は高いのでは。 ・17万円は高いということが多く聞かれる。しかし、若い人が出られる議会でなくてはならず、若い人が生活できる報酬額でもないのでは。
<ul style="list-style-type: none"> ・現状のままでもいいと思う。しかし、定数を削減できれば増額してもいいと思う。 ・定数を削減し「少数精鋭主義」の議会となることを前提に考えれば現状の水準でいいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の金額が高いのか、安いかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定数を減らして報酬を上げ、少しでも議員の魅力アップになればと思う反面、人口が減少すると財源も厳しくなるので、トータルで考えてほしい。 		

その他の意見

町民の皆さまから「議員定数」と「報酬」以外でもたくさんのお意見を頂きましたので、要約して掲載します。

議会報告会

・議会の傍聴が少ないのは行政に対して議員がどのように関わっているのか伝わっていないからではないか。

・議会だよりがあまり読まれていないので、見たくなるような広報を心掛けるべき。

町民ポスト

・定数条例の議決をした際は賛成・反対した議員名を議会だよりへ掲載し、選挙の洗礼を受けるべき。

頂いた意見などを町長へ提出

議会報告会で町民の皆さまから頂いた意見や要望を町長に対して要望する事項や意見として提出するべきか議会運営委員会などで協議し、今後の行政執行に参考とするよう、12月22日に町長へ意見書を提出しました。



要望

・12月から3月まで行っている十勝岳温泉の冬期間割引をさらに延長するよう検討してほしい。

・空き家や廃屋が目立ってきているので、条例をつくるなど対策をしてほしい。

・廃棄物を山積みになっているところがあり、周辺環境への配慮からも改善するよう指導してほしい。

意見

・「景観」「環境」「健康」の3Kを生かした観光産業の確立、振興を図るべきでは。

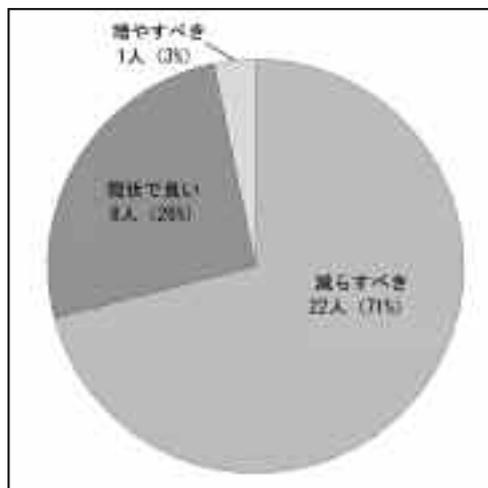
アンケート調査結果

議会では、町民の皆さまから「議員定数」と「報酬」の意見を広く聞かため、議会報告会の参加者

と町民ポストによるアンケート調査を実施しました。延べ31人の方から様々な意見を頂き、今後の協議の際に参考とさせていただきます。

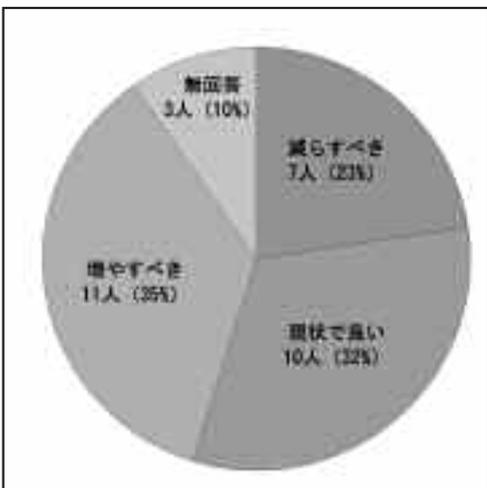
議員定数

- ・減らすべき 22人
- ・現状で良い 8人
- ・増やすべき 1人



報酬

- ・減らすべき 7人
- ・現状で良い 10人
- ・増やすべき 11人
- ・無回答 3人



方向性は決めず、議員個々の判断で

議会運営委員会では平成26年5月から「議員定数」と「報酬」について検討してきました。また、議会での協議と併せて各種団体や住民会長などと懇談会を行い、色々な意見や評価を頂きました。

「議員定数」も「報酬」も基本は議会自らが決定することであり、町民の皆さまから頂いた多様な意見を参考にしながらさらに協議を行ったところ、議員の間でも様々な意見が出されました。

今回は最後のまとめとして今まで協議してきた内容を掲載します。

議会のあり方と定数

行政改革が進み、議員の仕事量や責任が増している中で、自治体にも多くの権限が移譲され、町長の権限や責任はますます増大し拡大しています。

しかし、その反面で議会の権能はあまり増大していないのが現状です。

この状況を見ると、行政の監視機能を強化する必要があり、定数を削減していいのか考えさせら

れます。

地方議会は条例制定や予算の議決などのほか、行政を監視する権限があるものの、行政の守備範囲は広く全ての行政サービス

を監視・監督するためにはそれに対応できる定数規模でなければならず、単純に削減しても監視機能がきちんと確保できるのか議員個々で判断しなければなりません。

報酬はどうする？

今まで2回にわたって

掲載した議会、だよりの中で、報酬は議会自らが決定できるものの、何の基準もなく、類似町村を参考にしているだけであると掲載しました。専門的に活動するためには報酬を上げるべきとの声も多く聞かれます。

しかし、報酬目当てになるような報酬額の高額

化は十分に気を付ける必要があり、生活給と同じ

考えでいいのかなどの疑問点も多くあります。議員の報酬も「生活給」として見るのか「役職への報酬」と見るのか、その両面を見るのか多様な考え方があり、町民の皆さまから頂いた意見を参考にしながら判断します。

まとめ

選挙には25歳以上の町民なら誰でも立候補できます。町の中から出てほしい人を応援・支援していく雰囲気や養成される

の要求の実現と町の発展を実現する機関です。若い人から年配の方々、様々な地域や職業、女性の参加など、議会は厚く幅広い層で構成される

ことが望まれます。

町民の誰もが議員として

活動でき、仕事を持ちながらも議会活動できることが肝要となります。

議会では5月から議員定数は何名が適切なかの協議を重ねたものの、議会として統一した方向性を示すことはできません

でした。

今後は、議員個々が今回まとめた考え方などに基づいて判断し、定数の増減が必要だと考えるのであれば2名以上の賛成で発議を行い、本会議で審議し、決定します。

また、これらを協議するにあたり、多くの方々から貴重なご意見やご協力を頂き、誠にありがとうございました。

今後も町民の皆さまの信託に応えていけるよう、議員の持つ機能を十分に発揮し、職務を遂行するよう日々精進し努力していきます。





梅林組合で製造している商品や活動内容を聞くようす

特産品の開発と販売

千葉県横芝光町

千葉県最大数の梅の木 1千500本から採れる梅を梅林組合が主体となり、加工の基準を決め、梅干しやジャムなどの加工品を製造し大消費地に供給していました。また、グリーンツーリズムによる梅の農業体験ツアーなどの企画や加工品のさら

なる開発も検討していま

した。

地元の商工会では、必要に応じて免許を取得し、特殊酒類や一般酒類など、地場産品を中心に販売し、直売所はビジネスチャンスの創出や町のPR、イメージアップや消費の流入、雇用の創出などにつながっていました。

発や6次産業化、ブランド化の取り組みが進められていました。

また、認定農業者の育成強化を図りながら、体験型観光農業を推進し、農業の活性化を図るための協議会が組織され、農業活性化の提言がされてきました。

栃木県茂木町

農林業や商業、観光の振興を図るため、道の駅などを拠点に農産物の直売や加工を行い、手づくり商品が盛んに販売されてきました。年間100万人が来客し、7億4千200万円を売り上げ、

今後は10億円の売り上げを目指していました。

道の駅は産業振興の場として農・商・工の強い連携で6次産業化を推進し、雇用の促進や町の活性化がされてきました。

おしえて!!
『グリーンツーリズム』
ってな〜に?

都市住民などが緑豊かな農山漁村に滞在してのんびり余暇を過ごすこと。また、観光などを通じて農村部側の地域活性化にもつながります。

茨城県茨城町

町の面積の半分が農地のため、力強い農業づくりを目ざし、名産品の開

まとめ

6次産業化の取り組みは3者3様の取り組みが見られました。農家個人が行うには施設整備などの資金の確保や販路の確保、品質の確保など多くのリスクを伴うことが予想されるため、行政が主導して6次産業化が行われていました。

6次産業化の取り組みで重要なのは、商品開発や加工設備、直売所の設

置などの取り組みが促進されるよう、人材育成のための講座の開設や融資補助金の支援体制を整備するなど行政の持続的な支援体制が欠かせない。また、単体の事業にとどまらず、町全体の方向性を考え、6次産業化や雇用、移住定住など、複合的な施策を通じて大きな視点での取り組みが求められます。



茂木町でご当地キャラクターの活動内容を聞くようす

商店街空き店舗対策

茂木町

アンテナショップ

市街地活性化委員会を
商工会青年部OB、経営
者の有志を中心に13名で
アンテナショップ「まん
なカフェ」を立ち上げ、
特産品の「えごまパスタ」
などが売られていました。

空き家再生推進事業

空き店舗の調査を商工
会が行い、この調査に基
づき、空き家を解体し、
その土地を10年間町に無

償で貸与し、有効活用を
図っていました。地権者

はその土地の固定資産税
が免除され、解体費は国
と町が50%ずつ負担して
いました。

空き店舗活用事業

空き家の調査に基づい
て、空き店舗への新規開
業に補助を行い、現在ま
で3店舗が開店していま
した。



アンテナショップ「まんなカフェ」視察の様子

まとめ

行政のリーダーシップ
のもと、実態調査に基づ
いて、国や県の補助など
を有効活用し、中心市街
地拠点整備も含めて整備
していたのが特徴的でした。
魅力あるまちを旨ざ
し、移住・定住がより一
層図られ、また雇用の創

出ができるよう、整備を
している印象が強く感じ
取れました。
今後、行政がどのよう
なまちづくりをしていく
のかを関係各機関と調整
し、町民の参画や協働を
通じて検討していく必要
性を感じました。

「」当地キャラの活用

ひぬ丸くん

(茨城町)

平成22年9月1日から、
キャラクターデザインを
全国で公募し、225点
の応募の中から選考委員
会により第1次、第2次、
最終選考によって10月27
日に現在のデザインに決
定しました。

緊急雇用事業によって
着ぐるみの運用専任で女
性を2名雇用し、各種イ
ベントへ参加していま

よこぴー

(横芝光町)

平成25年9月に「よこ
ぴー」が誕生しました。
町のさらなる発展を象徴
するのにふさわしいキャ
ラクターを作製し、各種
事業の啓発やPR活動に
活用することで町のイ
メージアップと認知度の
向上、商工業や観光産業



横芝光町の「よこぴー」

の活性化を図っていま
した。

ゆずも

(茂木町)

平成25年7月からご当
地キャラクターを公募し、
全国各地から571点の
応募があり、平成26年1
月15日の選考委員会で
「ゆずも」に決定しました。
作成費は70万円で広告塔
として活用されていま

した。

まとめ

視察先のキャラクター
に共通するのは、キャラ
クター自身に人格を持た
せ、積極的に行動し日常
の出来事を町内はもとよ
り、全国に広く発信する
ことで、キャラクター目
線から町の魅力をPRし
ていました。

緊急雇用創出事業など
で女性を登用することに
よって、動きがかわいら
しくなり、より愛される
ような工夫をしていま

また、町内の衣料業者
と提携してキャラクター
の入ったTシャツやポロ
シャツを販売するなど官
民挙げた取り組みによっ
て、地元を盛り上げる工
夫がされています。
上富良野町の観光や農
産物などのPRのために
も、「らべとん」の積極的
な活用が求められます。

厚生文教常任委員会

平成25年9月から「特別養護老人ホーム ラベンダーハイツの運営」と「健康寿命の延伸」をテーマに掲げて調査し、第4回定例会で調査内容を報告しました。

特別養護老人ホーム

ラベンダーハイツの運営

昭和59年4月1日に開設し、定員50床の多床室で運営をしています。

また、平成4年にはデイサービス事業、平成11年に短期入所生活介護と

自治体	名称	設立・経過	ベッド数	形態	運営
上富良野町	ラベンダーハイツ	昭和59年	50床	多床室	公設公営
中富良野町	こぶし苑	平成17年	30床	多床室	公設公営
富良野市	北の峯ハイツ	平成25年新築移転	120床	個室	民設民営
南富良野町	一味園	平成22年移譲	50床	多床室	公設民営
	ふくしあ	平成20年	50床	個室	公設民営

介護予防短期入所生活介護（ショートステイ）事業を開始し、介護施設の拠点として地域の施設介護を担ってきました。

平成25年10月1日現在の入所者は男性12名、女性38名の合計50名で、平均介護度は4となっています。

正職員15名、臨時職員39名の職員で運営し、平成26年には給食業務が委託となり、臨時調理員は委託先に再雇用されています。

今後の課題

介護職員と

看護職員の確保

ラベンダーハイツの各事業はマンパワーが基本であり、安定した良質なサービスを提供するためには介護や看護職員の確保が必要となります。必要な人員を確保し、安定した運営をしていく

ためにも職員の処遇改善などが課題となつています。

整備計画の策定

昭和59年4月に開設し、今年度で30年目を迎え、全体的に老朽化しています。施設を整備するための



ラベンダーハイツ職員と意見交換のようす

基金の残額も平成25年度末の見込みで422万円程度となつてしまっています。

今後は設備などの状態を点検し、将来を見据えた整備計画で効率的な改修などを行っていく必要があります。

また、ラベンダーハイツは多様化・高度化する利用者ニーズに対応できる個室型の部屋がなく、多床型のみ施設となっています。

小規模特養（50床）の規模

一般的に特養の経営で採算がとれる適正な規模は100床程度と言われています。

効率的な利用者確保を図り、経営改善や財源確保の観点からも、増床の調査研究を重ねる必要があります。

まとめ

昭和60年に老人保健法が改正され、人権をより重視した施設運営が求められてきました。

近年は、特別養護老人ホームも公設公営から社会福祉法人などの民間へ移譲を行うケースが増え、

入所者のプライバシー保護やプライベート空間の確保などから、個室化によるユニット化が増えて

います。今後は公設民営化、民

設民営化などのあり方も検討する必要があり、地域のニーズにも応えられる多床室と個室の混合型など増床を視野に入れ、生活弱者でも利用でき、社会的に孤立しない介護施設の運営が望まれます。

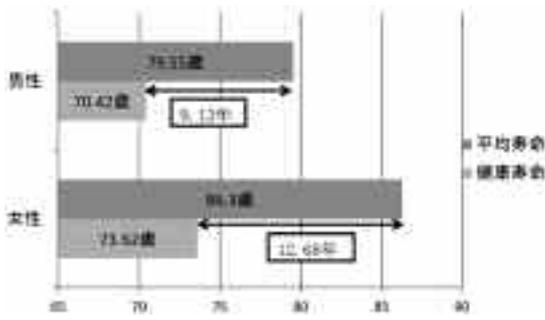
健康寿命の延伸

平成25年度から実施している第2次健康日本21計画で「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が重点推進事項に定められました。高齢者になっても

現状と取り組み

町の平均寿命と健康寿命

平成22年現在の平均寿命は男性79・6歳、女性86・3歳となっています。また、健康寿命は男性70・4歳、女性73・6歳



健康で自立して暮らせる期間をいかに長く保つかが超高齢社会の中で最も重要となるため、「健康寿命の延伸」を調査しました。

となり、この平均寿命と健康寿命との差は「不健康な期間」を意味し、男性で9・1歳、女性で12・7歳の差があります。

行政の健康づくり

保健福祉課

特定健診、特定保健指導、かみふっ子健診、がん検診、食生活改善、歯科検診など。

町民生活課（国保）

住民を対象とした健康づくり講演会や健康教室など。

教育委員会

スポーツ団体の育成や体力増強の各種教室や講演会など。

特定健診と特定保健指導

多くの市町村で特定健診の受診率が低迷している中、町の受診率は北海道が24%のところ70・3%と大きく上回り、特定保健指導率も81・8%と高い数値になっています。

「健康づくり推進のまち」宣言

平成26年2月8日に「健康づくり推進のまち」を宣言し、さらなる健康

長寿のまちをめざしていきます。

住民の健康づくり

住民会単位で定期的にフロアカーリングやパークゴルフ大会を実施しています。個人ではウォーキングやジョギング、自転車、パークゴルフ、ふまねつなどで体力増強や維持が行われています。



十勝岳を眺めながら歩くフットパスのようす

今後の課題

健康づくり

目標の明確化
目標を数値化し、その目標に向かい、着実に住民と一体となって健康づくりを進めることが必要。

喚起事業の充実

住民自身が気づき、そしてやる気を起こさせるような施策の充実が求められます。

健康づくりの推進体制

健康づくりの推進体制を「健康づくり推進週間」として実施していき、今後も継続的に行い、住民の意識向上を図るべき。

健康づくりの推進体制を「健康づくり推進週間」として実施していき、今後も継続的に行い、住民の意識向上を図るべき。

まとめ

町の健康づくりの取り組みは他の市町村の模範となるほど充実しています。特に特定健診や特定保健指導率は道内でトップを競い合っています。

しかしながら、健康寿命の延伸は健診の受診率や保健指導率を向上させることが目的ではなく、1人ひとりがいきいきと豊かな暮らしを持続する

ことが目的です。

そのためには、健康寿命を延ばす施策を明確にし、「健康づくり推進のまち」にふさわしい「健康長寿のまち」の実現に向けて主役である町民と、行政との協働で進めていくことが強く望まれます。

議会の窓



10月14日	総務産建常任委員会 道外先進市町村行政調査（～17日）
21日 20日	岩内町議会視察来町 厚生文教常任委員会
22日 21日	富良野沿線市町村議会議員研修会 三重県津市議会視察来町
23日 22日	総務産建常任委員会 第5回臨時会
27日 26日	議会運営委員会 全員協議会
28日 27日	上川管内町村議会議員研修会 厚生文教常任委員会 議会運営委員会
31日 30日	第6回臨時会 第5回議会報告会
11月7日 6日	厚生文教常任委員会 議会運営委員会
19日 18日	第5回臨時会 第4回臨時会
20日 19日	厚生文教常任委員会 議会運営委員会
21日 20日	総務産建常任委員会 住民会長との懇談会
25日 24日	第7回臨時会 総務産建常任委員会
12月1日 1日	美深町議会視察来町 総務産建・厚生文教常任委員会合同委員会
2日 1日	厚生文教常任委員会 総務産建常任委員会
5日 4日	議会運営委員会 全員協議会
8日 7日	議会広報特別委員会 第4回定例会（1日目）
11日 10日	第4回定例会（2日目） 総務産建・厚生文教常任委員会合同委員会
12日 11日	議会広報特別委員会 厚生文教常任委員会
17日 16日	議会運営委員会 総務産建・厚生文教常任委員会合同委員会
22日 21日	議会広報特別委員会 議会広報特別委員会
1月22日 21日	議会広報特別委員会

岩内町議会が来町

10月20日に総務常任委員会が「職員研修」について調査するため来町しました。担当職員から平成25年度に実施した研修や職員を派遣した研修などを説明し、質疑応答など意見交換を行いました。

三重県津市議会が来町

10月22日に会派「二津会」が「健康づくり推進のまち」宣言について調査するため来町しました。宣言の内容や宣言までの経過、健康づくりの推進のための事業内容などについて説明し、意見交換などを行いました。

また、終了後は「かみん」を視察しました。



美深町議会が来町

11月25日総務住民常任委員会が「特定健診の取り組みと町立病院の連携」、「医療費を下げるための生活習慣病予防の取り組み」について調査するため来町しました。担当職員から保健指導体制とこれまでの経過や特定健診などの事業内容を説明し、質疑応答などを行いました。

議会を傍聴してみませんか？

町議会では年4回、3月・6月・9月・12月に定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催しています。

議会の傍聴は、最も身近な議会活動に触れることのできる方法です。議会では住民生活にも関わる様々な案件を真剣に審議しています。

また、定例会では議案のほかにも議員が行政（町長や教育長）へ質問をする「一般質問」も行われます。

次の定例会開会予定は…

3月3日（火）	報告案件、補正予算など
4日（水）	新年度予算など
10日（火）	一般質問
11日（水）	一般質問
18日（水）	条例改正などです！

※この日程は変更になる場合がありますので、ご確認のうえ、役場3階の議事堂までお越しください。

お気軽にお越しください。
たぐさんの傍聴をお待ちしています！

お問い合わせ
上富良野町議会事務局 電話 456992

「町のひと」にインタビュー!!



朝倉さんご夫妻
(基線北 27 号)

旭川市から移住し、日の出地区でペンションを営んでいる朝倉修さん、暁子さんご夫妻にお話を伺いました。



景色や星空に

魅せられて

平成18年11月、この上富良野町を第二の故郷とすべく旭川市から移住してきました。

きっかけは、勤務していた会社へ西小学校に天文台を併設したいという依頼があり、上富良野町を訪問したのが絆の始まりです。

頻繁にこの町を訪れるうちに、景色や星空の美しさに魅せられ、退職後はこの町で暮らしてみたいと考えるようになりました。

開業までの道のり

平成17年頃、現在地を購入できる見込みとなったため、55歳(GOGO)を期に退職願いを提出し、会社の先輩や友人、親せき一同の反対を押し切り、

愛妻と二人で民宿を営むことにしました。開業までは、紆余曲折があつたものの、町の皆さまの暖かな支援により、平成18年12月「旅の宿 ステラ」を開業しました。

近所の方々に支えられて

近所の方々に

支えられて

近所の人たちの応援もあり、無事9年目を迎えることができました。

これから先も、上富良野の豊かな自然や温泉と、日本一の美しい星空をアイテムに「星空がいざなう癒しの宿」としてこの

地に根付いていくつもりです。

町に求めること

私も観光に携わる1人として、もうそろそろ夏はもとより冬の観光にも町と観光協会、商工会が一体となつて取り組む必要があるのではないと思

す。冬でも「かみふらの八景」に行けるように標識の整備をするなど、取り組んでほしいです。

(インタビュー…
徳武委員)



自慢の望遠鏡

あとがき

■ 昨年は、全国的に自然災害の多い年でした。特に、御嶽山の噴火は土曜日の午前11時52分、絶景を眺めながら昼食をとろうと山頂付近に登山者が集結していた矢先に最悪の状況下で爆発が起きたのです。

■ 活火山十勝岳と共に生きる私たちにとって大変シヨックな火山災害でした。

■ 昨年の12月16日、十勝岳も警戒レベルが1から2に引き上げられました。自然はしばしば人間社会に大きな試練を与えます。災害に対する備えに万全を期さなければならぬと心新たにしたところです。

■ 東児童館の鏡開きにちなんだ「おしるこ会」にお邪魔しました。お餅をおする粉やきな粉もちにしてもらい、参加者全員おいしそうにほお張り、今年1年の無事を祈っていました。昔から伝わる正月の伝統行事を子どもたちに語り継いでいくことも私たち大人の大切な役割ではないでしょうか。

(中澤 記)

議会広報特別委員会

委員長	村上 和子
副委員長	中澤 良隆
委員	佐川 典子
	米沢 義英
	徳武 良弘
	中村 有秀